

農業の新しい技術

No. 648(平成23年5月)
分類コード 02-10
熊本県農林水産部

クリ「ぼろたん」の高品質安定生産に適した 優良結果母枝の資質と本数

農業研究センター 球磨農業研究所
担当者：春崎聖一

研究のねらい

「ぼろたん」は、渋皮が剥けやすいという、これまでのニホングリにない果実特性を持っているため、生産地や消費地からの期待が非常に大きい新品種であるが、本県での成木における結果習性についてはまだ明らかされていなかった。そこで、高品質安定生産を図るため、優良結果母枝の資質と適正な設置本数を明らかにする。

研究の成果

1. 結果母枝1本当たりの雌花数は、前年結果枝、前年未結果枝（発育枝由来）とも基部径および先端部径との関係が大きく、それらが太いほど雌花が多く着生する（表1）。
2. 基部径7mm以上かつ先端部径4mm以上の結果母枝が、雌花および毬果を多く着生する。また、前年結果枝が前年未結果枝より優れる（表2）。
3. 先端部径4mm以上では、健全果収量と2L以上果数が多い（表2）。
4. 結果母枝の資質は、1果重と果実比重には影響しない（表2）。
5. せん定時に樹冠占有面積1㎡当たり6～8本の優良結果母枝を残すと、雌花数と収量が多くなる（図1）。また、次年度以降も安定的に優良結果母枝が発生する（データ略）。

以上のことから、「ぼろたん」の成木において高品質安定生産を図るためには、せん定時に基部径7mm以上かつ先端部径4mm以上の優良結果母枝を、樹冠占有面積1㎡当たり6～8本設置する。

普及上の留意点

1. 本試験では、黒ボク土の畑に植栽された樹齢9～11年生の樹を用いて、長さ30cm以上の結果母枝について調査した。
2. 長さ30cm以下の短い前年結果枝を連年多用すると、樹勢の低下や着毬数の減少を招くので注意する。

表1 結果母枝の資質と雌花数との相関関係 (2008~2010年)

結果母枝の種類	資質と雌花数との相関係数(r)			基部径と先端部径の相関係数(r)
	長さ	基部径	先端部径	
前年未結果枝	0.173ns	0.304**	0.454**	0.475**
前年結果枝	0.402**	0.507**	0.361**	0.429**

注1) 着穂率70%以上の結果母枝について調査

注2) **= 1%水準で有意、ns=無相関

表2 結果母枝の資質の違いが雌花・穂果着生、果実品質に及ぼす影響(2008~2010年)

結果母枝の資質		全結果母枝		うち着穂率70%以上の結果母枝				
種類	基部径	先端部径	雌花数(個/本)	着穂数(個/本)	健全果収量(g/枝)	2L以上果数(個/枝)	1果重(g)	比重
前年未結果枝	7mm以上	4mm以上	7.6	4.0	153	5.2	29.6	1.095
	7mm以上	4mm未満	5.3	2.4	89	2.9	29.2	1.104
	7mm未満	4mm以上	6.4	3.1	167	5.5	29.6	1.087
	7mm未満	4mm未満	3.6	1.7	108	3.8	27.7	1.086
前年結果枝	7mm以上	4mm以上	8.6	4.7	192	6.7	28.7	1.094
	7mm以上	4mm未満	6.2	3.0	144	4.6	30.6	1.094
	7mm未満	4mm以上	6.9	3.5	164	5.3	28.7	1.106
	7mm未満	4mm未満	4.6	2.2	124	4.3	28.7	1.087

注1) 基部径：結果母枝の基部から5cmの長径

注2) 先端部径：結果母枝の先端から3~4芽の中間の長径

注3) 2L以上果数：1結果母枝当たりの2L以上の健全果数

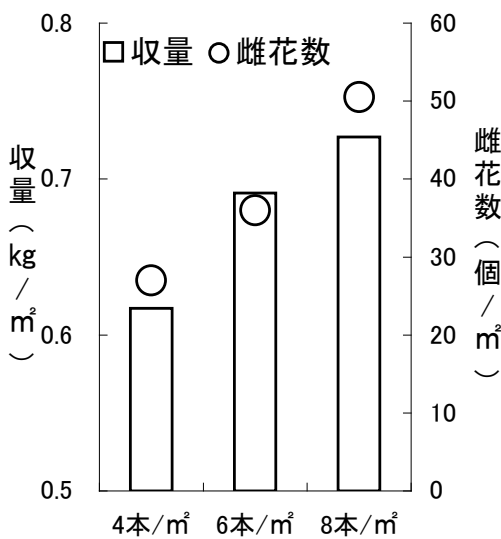


図1 結果母枝密度が雌花数と収量に及ぼす影響(2009・2010年)

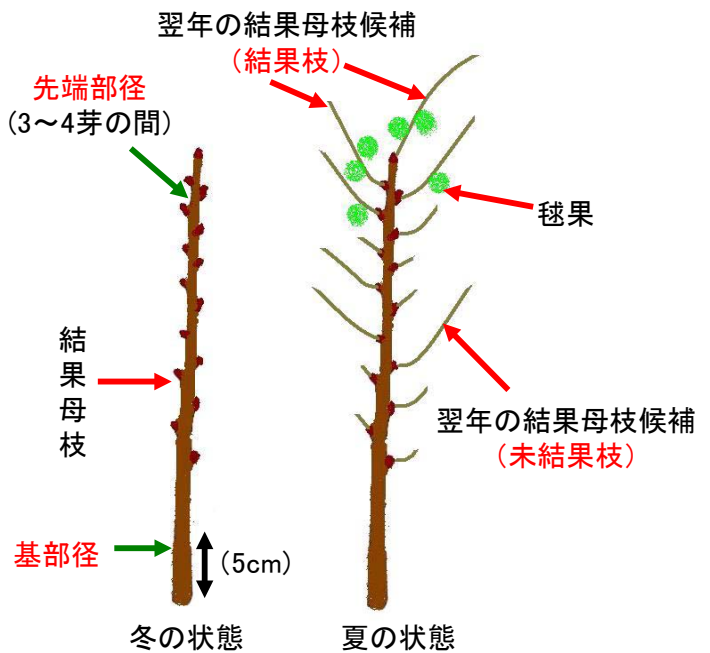


図2 クリの結果習性と結果母枝の種類